

Photo & Text = *Takaji Ochi*
Special Thanks = *Panunee Yacht, World Tour Planners*
Design = *Maya*

パヌニーヨットで行く

デラワン サンガラキ諸島

5島巡りクルーズ

インドネシアのカリマンタン島（マレーシア領土側ではボルネオ島）の東に位置する
デラワン島、サンガラキ島、マラトゥア島、カカバン島、サママ島の
デラワン・サンガラキ諸島の人気ダイビングスポットを巡る。
感動的なジョーフィッシュのハッチアウト、マンタとのランデブー
ジェリーフィッシュレイクでクラゲに囲まれ
バラクーダやギンガメアジの巨大な群れに巻かれるなど
毎日違ったバリエーションのダイビングが楽しめる5島のおいしいところ取りクルーズへ。

Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring





成田からジャカルタへ。そこで1泊してバリクパバン経由でカリマンタン島北東端の港町、タラカンへ到着する。小さな空港には、今回乗船するパヌニーヨットのオーナー、ジャクリーンさんとスタッフたちが出迎えてくれた。

デラワン・サンガラキ諸島でのクルーズを行うのは、このパヌニーヨット。タイ国籍で通常はシミランクルーズを行っているダイビングクルーズ船だが、シミラン諸島のシーズンオフとなる5月頃～11月頃までは、インドネシアのレンベ海峡やミャンマー、インドのアンダマン諸島などへのダイビングクルーズなど、さまざまな企画クルーズを積極的に行っている

デラワン・サンガラキ諸島を巡る パヌニーヨットに乗船する

市内で食事を済ませると、さっそく船の停泊している港に向かう。港の周辺には、海上に所狭しと建てられた木造建築の海上住居がひしめき合っていて、ひとつの町のようになっていた。狭い路地裏のような栈橋で遊ぶ子供たちの無邪気な笑顔が印象的だった。

港に着岸した小さなティンギーに乗船して、パヌニーヨットへ。初日は、船上でのオリエンテーションが行われ、夜中に出港。翌日早朝には、まず第一の島に到着している。通常のコースとしては、タラカンの港を出港して、翌日(乗船2日目)にはサンガラキ島で最大4ダイブ。乗船3日目にカカバン島で最大4ダイブ。4日目にマラトゥア島、5日目にサママ島、そして6日目にデラワン島でダイビングを行って7日目にタラカンに戻り下船というルートを取る。

マンタで有名なサンガラキ、マクロ三昧のデラワン、サママ。カカバンは美しいサンゴに島の中にあるジェリーフィッシュレイク、そして豪快なチャネルダイブに群れ狙いのマラトゥアと5島が、それぞれ違った特徴の海を持つ。

今回、僕が乗船したクルーズでは、ちょっとしたアクシデントがあり、出港が1日遅れたことと、デラワン島でのジョーフィッシュのハッチアウトのタイミングに合わせるために、上記のルートを取らず、デラワン島、サンガラキ島、カカバン島、マラトゥア島という順番で4島を巡ることになった。



Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring

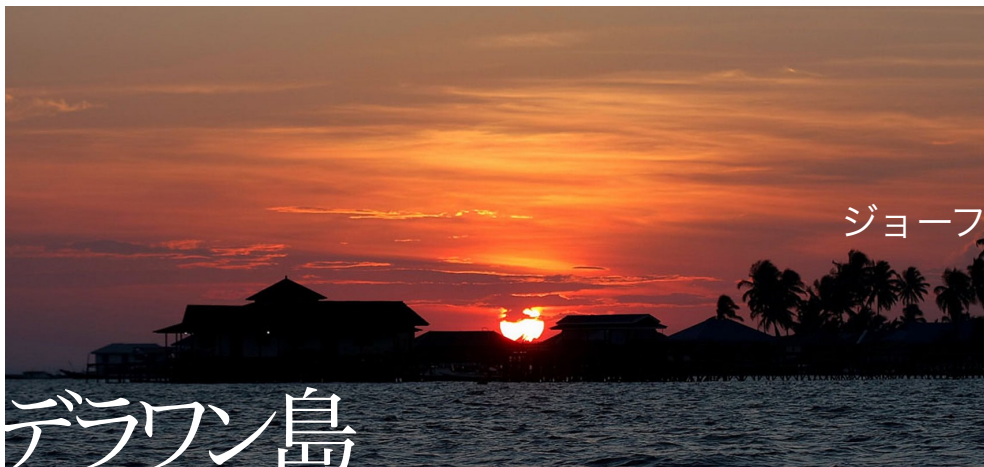
パヌニーヨットで行く
デラワン
サンガラキ諸島
5島巡りクルーズ

何匹ものジョーフィッシュの
ハッチアウトに大興奮

デラワン島

Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring





1日出遅れたバヌーヨットだったが、その遅れも解消するくらいの一大会が最初の島、デラワンで待っていた。ちょうど僕たちが乗船したクルーズの日程では、このタイミングでジョーフィッシュたちが、ハッチアウトを行うということだった。

ハッチアウトの時間帯は、日の出前の15分間前後という確実なデータがある。前日にガイドがジョーフィッシュの多く生息しているポイントに潜り、翌日、あるいは翌々日にハッチアウトしそうな個体の巣穴の側に目印をつけておく。

僕らは、まだ暗い間に母船からダイビングの準備をして、ディングーに乗り込みポイントに向かう。早朝の暗がりの中、島に向かって進んで行くのは、なんだか極秘上陸作戦を遂行するために派遣された特殊部隊みたい。

人気の無い、水上コテージの棧橋の下まで来ると、ガイドの合図で一齐にバックロールでエントリー。当然のことながら、まだ海中は暗く、水中ライト無しでは、どこに誰がいるのか

さっぱりわからない。ガイドのライトの指示の元、目印の割りばしが砂地に刺し

であるジョーフィッシュの巣穴をダイバーが取り囲む。といっても、いくつかあるので、場所の取りあいになることは無い。一番浅い水深のものは8m程度。もし、自分がターゲットにしたジョーフィッシュがハッチアウトしなくても、すぐ近くに別の個体の巣穴があるので、移動することも可能だ。

ハッチアウトを邪魔しないように、直接ライトを当てずに、静かに様子をうかがう。ハッチアウトが始まったら、途中でやめてしまうことは無いので、そうなればライトを当てたり、ストロボを発光させても大丈夫とブリーフィングで伝えられていた。

薄暗がりの中、ジョーフィッシュの口の動きが激しくなり始めた。僕は微妙な明るさを頼りに、ジョーフィッシュにピントを合わせる。離れた場所にライトを当てているガイドの明かりだけが頼りだ。

ひときわ激しく、ジョーフィッシュが口を動かした瞬間、稚魚が口から飛び出した。こうなったら、もうストロボを当てて

も大丈夫。終わるまでハッチアウトをやめることは無いらしい。ダイバーのカメラから一齐にストロボ光が放たれ、一大会イベントが開始された。

ジョーフィッシュは数分間にわたって、何度も何度も稚魚を口の中からハッチアウトさせて、海中の中へと送り出す。薄暗がりでのファインダーをのぞいているために、稚魚を放出するタイミングでピントを合わせるのに必死で、この感動的シーンを肉眼でじっくり観察している余裕は無かった。

しかも、なんだか舌のようなものが口から出たり入ったりしているのが見えて、「ジョーフィッシュって舌なんてあったっけ？」と思って後で画像を確認したら、なんと僕が最初に狙っていたジョーフィッシュは、口の中に卵と一緒に藻のようなものを飲みこんでいたらしく、その藻の一部が舌のように出たり入ったりしていたのだ。

ジョーフィッシュはハッチアウトのときに、口にこのよう



な藻を詰め込む習性があるのかと思ったけど、他のジョーフィッシュではこのような行動は確認されなかったの、たまたま飲み込んでしまったのだろう。

ハッチアウトの瞬間としては、かなり勢よく稚魚が飛び出して、気に入っていたのだけど、親の口の中が藻だらけなのは、暗くて気付かなかったために、ちょっと残念な写真になってしまった。しかし、多少時間をずらして、別の個体がハッチアウトを行ったりするので、観察できるのは、1個体だけではないのも嬉しかった。

クルーズの日程によっては、このジョーフィッシュのハッチアウトという、一大会イベントを堪能できる可能性もあり、ダイビングのバリエーションをより

ハッチアウトのタイミングに合わなくても、マクロ天国デラワンでは、さまざまなシア生物を見ることができる。ナイトダイビングもお薦めだ。

Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring



サンガラキ

カラフルな景観のマンタ天国を往く



ジョーフィッシュのハッチアウトを2日間狙ってダイビングしたために、サンガラキでのマンタ狙いのダイビングは1本だけとなってしまった。

フラットな砂地の地形に、サンゴとカイメンが混在するような不思議な景色を堪能し、ドリフトで移動しながらマンタとの遭遇を待つ。サンガラキのポイントの多くは、マンタに由来する名前がつけられているくらいマンタとの遭遇率が高い島でもある。

ときには10数匹がランデブーしているシーンにも遭遇することもあると聞かされて期待していたのだけど、今回は運悪くマンタに遭遇することはなかった。

しかし、透明度の高い砂地の両サイドに群生するサンゴとカイメンのオブジェは美しく、僕はその自然のオブジェ

の撮影を堪能していた。

マンタの写真は、パヌニーヨットのオーナーで水中カメラマンでもあるジャクリーンさんが以前に撮影したものをお借りした。明るい砂地でマンタに遭遇している状況がよくわかる。

今回は、マンタ狙いで1ダイブだけだったために、残念な結果になってしまったが、通常は3だいはマンタ狙いで潜るので、きっとマンタには会えるものと思う。

それにしても、とにかくサンゴとカイメンの自然のオブジェも面白いので、ぜひ注目して欲しいポイントだ。

Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring

パヌニーヨットで行く
デラワン
サンガラキ諸島
5島巡りクルーズ

ジェリーフィッシュレイクで
ぽよぽよ体験



カカバン

Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring





内と外、穏やかな海をのんびり楽しむ

カカバン



カカバン島は、サンガラキ島から、20分ほど移動した場所にある、島の中央に外海から遮断された塩湖を持ち、パラオのジェリーフィッシュレイク同様の毒の無いクラゲたちが生息する特殊な環境が作り出されている。

まず、外洋のドロップオフでダイビング。棚上には美し

けでいい。小さな山をひと山越える感じだが、歩いて10分程度。

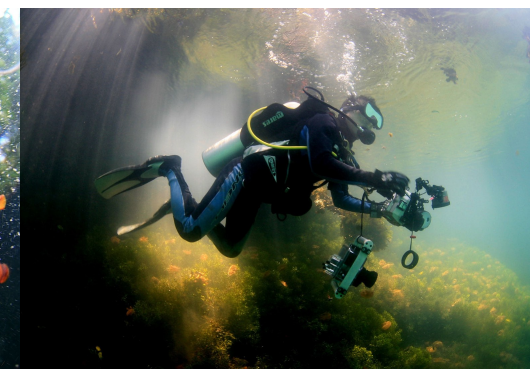
エントリー時には、海中の泥砂を巻き上げないように注意が必要だ。「一番美しいのは、クラゲではなくて、湖に張り出して林立するマングローブの根と、木々の間から、海中に降り注ぐ木漏れ日だよ」とジャククリーンさんは、嬉しそうに僕に告げると、「あっちの方が雰囲気があって、おすすめだから、あちは君が独占して撮影すればいいよ」とベストな撮影場所を紹介してくれた。

木々の間から、海中に差し込む木漏れ日が、海でのダイビングとは違った優しさを感じさせてくれる。そして、ぼよぼよと揺れ動くクラゲたちにも癒されて、のんびりまったりとしたダイビングを楽しんだ。

いサンゴが群生していて、ドロップオフではガイドが、ピグミーシーフォースを見つけてくれる。アイドルフィッシュのアケボノハゼ、ウミウシなど、小物探しのダイビング。

ブルーウォーターには、ロウニアジやイソマグロ、ギンガメアジの群れなどが姿を見せる。運が良ければハンマーヘッドシャークにも遭遇できるとか。

しかし、なんとと言っても、このカカバンでのメインは、ジェリーフィッシュレイクでのダイビングだ。機材に関してはクルーたちが持ってくれるので、ジャングルの中に、ちゃんと木材で作られた歩道を何も持たずにレイクに向かうだ



Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring

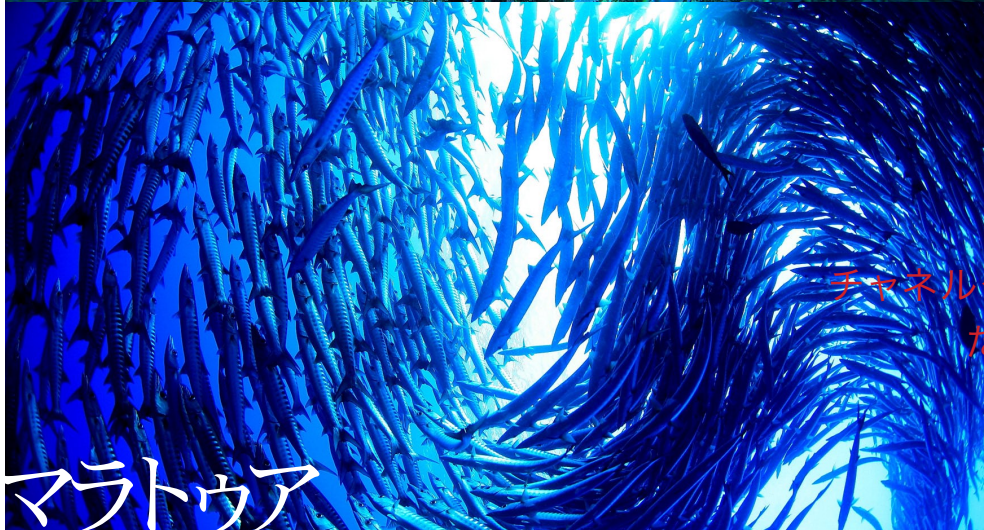
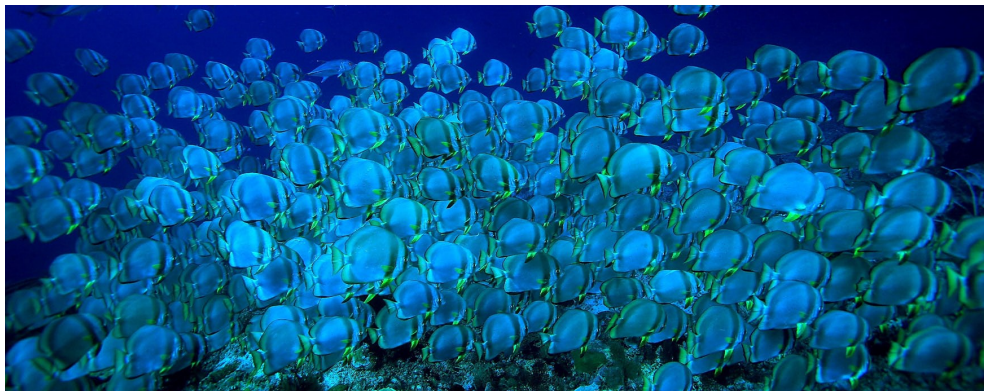


激流、そして群れ、群れ、群れ！

マラトウア

Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring





チャンネルダイビングの醍醐味を たっぷり味わう

今回のクルーズで最後に向かったのが、マラトゥア。
マラトゥアでのメインダイビングポイントは、チャンネル。
環礁状になっている島の唯一の入口になっているチャンネルでは、潮の満ち引きによって、激しい流れが発生する。基本的にはインカレント、あるいは潮止まりを狙って、チャンネルを横切るダイビングを行い、そこに群れているイエローフィンバラクーダやブラックフィンバラクーダ、ギンガメアジの群れ、ナポレオンやロウニンアジ、グレーリーフシャークなどの大物との遭遇を期待してのダイビング。

特に注目したいのは、ブラックフィンバラクーダの群れだ。数的にも相当なものだが、必見すべきはその密集度。群れはばらけることなく、まるで一つの生命体のようにぐにやぐにやとごめく。その動きが群れの迫力をさらに引き立てている。時にはギンガメアジの群れとコラボしたり、渦巻く群れの中に入ったり、ダイバーをあまり警戒することもなく撮影もしやすい。

それに、さまざまな形に群れの姿を変えてくれるので、いつまで撮影してい

いても飽きることはない。オーナーのジャクリーンさんは、今回このバラクーダの群れを撮りたくて乗船していたらしく、何度も何度もこのポイントに潜り、横から、上から、そして下から、なめまわすように、撮影を行っていた。

このチャンネルの入口でのダイビングを堪能した後は、流れに沿って、チャンネルの中へと流されていき、安全停止をして環礁内で浮上する形をい取ることが多い。環礁内へ流されていく途中でも、巨大なタマカイに遭遇したり、10匹ほどのマダラトビエイの群れに遭遇したりと、最後まで飽きることなく、大物を見せてくれる。

しかし、激流時には相当環礁の内側まで流されてしまう。流されても環礁の中で、行きつく先は島だからそれほど心配することは無いけど、フロートは必携だ。

このチャンネルダイブ以外のポイントでも、ナンヨウツバメウオの群れとギンガメアジの群れがコラボしているシーン

に遭遇したり、カスミアジの群れに取り囲まれたりと、群れ三昧。

ドロップオフでは、3種類のピグミーシーフォースを見せてもらったりと、マクロもそれなりに楽しめる。

アフターダイブでは、島にある小さな村に上陸して、人々の生活を垣間見ることができる。ここでも、子供たちの無邪気な笑顔が印象的だった。



パヌニーヨットで行く
デラワン
サンガラキ諸島
5島巡りクルーズ



Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.

Web-lue 2009. Spring





パヌニーヨット

フォト派ダイバーのために作られたダイビングクルーズ船

今回、このデラワン・サンガラキクルーズのために乗船した、パヌニーヨットは、前述しているとおり、タイ国籍のダイビングクルーズ船で、シミラン諸島のベストシーズンにはそこでクルーズを行っている。

シミランのオフシーズンには、近隣諸国でのスペシャルトリップを多く企画している。オーナーで水中カメラマンでもあるジャクリンさんは、「今後もさまざまな海で様々なスペシャルトリップを企画していきたい」と話す。

船の全長は32m、幅7m。全室エアコン完備。スイートルーム2室、デラックスルーム2室、スタンダード（スタジオ）ルーム2室。オーナーが水中カメラマンでもあるためか、このスタジオルームはカメラマン専用デスク、明るい照明、プロアー、バッテリー充電のために100Vと220Vコンセントが完備されていて、などが完備されていて、僕もその部屋を使用させてもらったんだけど、2人1室のところを一人で使わせてもらったこともあり、カメラやコンピュータをデスクに広げればなしで作業ができて、とても快適だった。

メインデッキのラウンジには、スライドプロジェクターやマルチシステムのビデオ、DVDプレーヤー、Macが常備されているため、カメラ派もビデオ派も編集作業やプレゼンテーションを行うことができる。



パヌニーヨットで行く
デラワン
サンガラキ諸島
5島巡りクルーズ



Republic of Indonesia
DERAWAN & SANGALAKI is.
Web-lue 2009. Spring